ロサンゼルス港・ロングビーチ港の労使休戦、11月20日まで延長

米国のコンテナ輸入を支える重要港で、港湾警備員のストライキの可能性が3度目の契約延長で先送りされた

2026年11月10日（火）



Wine and Spirits Shippers Associationの最新情報によると、ロサンゼルス港とロングビーチ港で懸念されていた労使紛争のリスクは再び先送りされた。一方、チリとフランスでは海運状況が改善し始め、ダブリンでは数日間にわたる交通の混乱が見込まれている。

同協会によると、Pacific Maritime AssociationとILWU Local 26は労働協約を3度目に延長することで合意し、期限を11月20日に変更した。これにより、港湾警備員によるストライキ行動の一時停止が維持される。この争議は、南カリフォルニアの港湾複合施設でより広範な作業停止に発展する可能性があるとして懸念を招いていた。

ロサンゼルス港とロングビーチ港は米国のコンテナ輸入の大きな割合を扱い、欧州、南米、アジアからの食品・飲料輸送にとって重要な玄関口となっている。ワイン、ビール、蒸留酒の輸入業者にとって、今回の再延長は、多くの企業がホリデーシーズン向けの注文や年末在庫の管理に追われる時期に、突然の港湾閉鎖が起きる差し迫ったリスクを抑えるものだ。ストライキがなくても、労使関係の不透明な状態が長引けば、船腹予約の判断、内陸輸送の計画、運賃に影響が及ぶ可能性がある。

同協会によると、連邦調停・和解局（Federal Mediation and Conciliation Service）の関与のもと、交渉は継続される。最終合意の見通しについては示されていない。

チリでは、サンアントニオ周辺で独立系トラック運転手が起こしたストライキが、9日間に及ぶ混乱の末に終結した。コンテナヤードの封鎖や抗議活動も起きていたが、合意が成立し、トラック輸送は通常の運行に戻ったと同協会は伝えた。

このストライキにより、約2,500件のコンテナ移動に影響が出た。同協会は、ヤードの混雑や引き取り待ちの滞留を解消するには時間がかかると警告した。サンアントニオはチリ有数のコンテナ輸送拠点であり、ここでの遅れは農産物や飲料の輸出スケジュールに加え、国内に入る輸入貨物にも波及しかねない。飲料取引にとって今後の主な問題は、ストライキそのものよりも、積み重なった遅延を解消し、コンテナやトラックを再配置するまでに要する時間だ。

同協会によると、貨物の移動を遅らせていたフランスの税関システム障害は11月6日金曜日に復旧した。貨物の流れは徐々に正常化しているものの、最近の港湾ストライキに関連する滞留が一部で残っているという。

復旧によりフランスの港を経由する貨物への圧力は和らぐ可能性があるが、正常化はすぐにではなく、段階的に進むと見込まれる。アルコール飲料の輸出入業者は、流通スケジュールや販促計画、保管能力に合わせて厳しい納期で業務を進めることが多い。そのため、技術的な問題が解消した後も、短期間のシステム障害が影響を残すことがある。

アイルランドについて同協会は、欧州政治共同体首脳会議と欧州連合（EU）加盟国首脳会合のため、11月10日から13日までダブリン全域で大規模な交通混乱と道路閉鎖が起きると警告した。Docklands、North Wall Quay、Spencer Place、Samuel Beckett Bridge周辺のアクセス道路が大きな影響を受ける見込みで、11月11日水曜日から13日金曜日にかけて断続的な道路閉鎖が実施されるという。

11月12日木曜日には、FORSAのストライキ集会と全国規模の公共部門24時間ストライキが予定されており、混乱はさらに深刻化すると見込まれる。同協会は企業に対し、ダブリン港でのコンテナ引き取りや配送に余裕を持たせるとともに、可能であれば保管料、デマレージ、岸壁使用料を避けるため、輸入コンテナを早めに引き取るよう助言した。アイルランド国家警察のGardaは、影響を受ける区域の詳細を公表しているという。

一連の動きは、飲料業界に関わる世界の海運状況が一様ではないことを示している。チリのトラック運転手ストライキとフランスの税関システム障害という最近の2つの混乱要因は、収束に向かっている。一方、米国西海岸最大の港湾拠点で労使問題が起きるリスクは消えておらず、ダブリンでは道路アクセスの問題が数日間にわたって港湾業務を妨げる可能性がある。

ワインや蒸留酒を国際輸送する企業にとって、短期間の混乱でも商業面に広く影響が及ぶことがある。港や内陸の貨物ヤードで遅れが生じれば、コンテナの返却が滞り、機材の利用可能数が減り、サプライチェーンを通じて転嫁されることの多いコストが増える可能性がある。貨物の到着が遅れたり、滞留解消後に一度に届いたりすると、輸入業者は倉庫への受け入れ、販売業者への納品、小売販促のタイミングにも影響を受けかねない。

ロサンゼルス港とロングビーチ港の規模、および環太平洋・世界のコンテナ輸送における役割を踏まえると、南カリフォルニアの契約延長は米国市場で最も注目されるとみられる。港湾警備員のストライキが直ちに港の全面閉鎖を意味するわけではないが、同協会は、行動がより広範な作業停止に波及する可能性を指摘した。船会社や荷主が延長のたびに動向を注視しているのはそのためだ。

チリでは、9日間の作業停止中に遅れたコンテナを、ターミナルとトラック輸送がどれほど早く処理できるかが焦点となる。フランスでは、過去の労使紛争による混雑を新たなボトルネックを生じさせずに解消できるかが問われる。ダブリンの懸念は、より差し迫った地域的なものだ。首脳会議に伴う警備措置や公共部門の抗議活動の間、トラックが港に円滑にアクセスできるかどうかが焦点となる。

同協会は、今後も状況を監視し、新たな情報が入り次第、更新を提供すると述べた。